

From Ibigawa S A B O

ピカピカのランドセルを背負った新一年生が元気に登校している姿を見て、私達も新年度を実感しながら気持ちを新たに仕事に取りかかっています。今年度も「クマタカ通信」を通じて工事の状況をお知らせすると共に、当事務所が行っている事業や防災に関すること、地域や季節の話題などについて、お知らせしていきたいと思ひます。今年度も引き続きよろしくお祈ひします。

伊藤事務所長 赴任のごあいさつ



4月1日より、前任の岩男所長に代わり事務所長となりました伊藤誠記です。岩男所長と同様、地域の安全・安心を確保するために砂防事業を推進して参ります。どうぞよろしくお祈ひいたします。

昨年の広島市や一昨年の伊豆大島での土砂災害など、近年、多数の人命が失われる土砂災害が多発しています。「雨の降り方が以前と変わってきた」と言われる事もあります。

皆様ご承知のとおり、揖斐川上流域は、急峻な地形と活断層の集中、また多雨な気候条件により、これまで数々の土砂災害に見舞われている地域です。この地域でいつ土砂災害が起こったとしても皆様の安全・安心を確保できるよう、当事務所では土砂災害を防ぐ砂防堰堤の整備を着実に進める、地域の防災や砂防事業の担い手確保に努める、昨年度発足した「越美山系大規模土砂災害危機管理連絡調整会」などを活用し、関係機関と連携して防災訓練などを行い、いざというときに備える、などに取り組んで参ります。

引き続き、皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお祈ひ申し上げます。

土屋出張所長 赴任のごあいさつ



4月より揖斐川砂防出張の出張所長でまいりました土屋と申します。転任にあたり一言ごあいさつ申し上げます。

越美山系砂防事務所の事業実施の基本方針「①過去の災害を繰り返させない ②下流を洪水から守る横山ダムの堆砂を軽減する ③土石流から集落を守る ④大規模（深層崩壊）土砂災害に備える」に基づき、砂防堰堤などの砂防施設の整備を進めて参ります。不慣れな業務で不安もありますが、地域の皆さんに協力を頂きながら頑張りたいと思ひます。

当出張所は、この事業の中で砂防施設の整備工事を担当しております。工事を進めるにあたり、地域の皆さんの声を聞きながら、管内の恵まれた自然環境と調和を大切にし、安全第一で施工業者の皆さんと力を合わせ工事を進めて参ります。

工事の進捗や施工状況等について、「クマタカ通信」「事務所ホームページ」等を通じて引き続き地域の皆さんへお知らせしていきたいと考えております。どうぞよろしくお祈ひします。

淡墨桜 根尾に春を告げる

淡墨桜（うすすみざくら）が今年も満開の時期を迎えました。冬は雪の多い根尾に、春を告げるがごとく咲き誇っています。花の色は日を追う毎に変化し、つぼみのときは薄い桃色、満開になると白色、そして散り際には淡い墨色を帯びてくる事から「淡墨桜」と名付けられています。

東西が約27m・南北が約25mに及び、国の天然記念物に指定されています。

第26代継體（けいたい）天皇が植えて以来、樹齡は1,500年を超えると伝えられており、今年は4月30日までライトアップが予定されています。



淡墨桜のライトアップ(提供:本巢市)

里山探検隊 隊員募集中!!

奥越豪雨災害から50年!

根尾白谷・徳山白谷の大崩れを知っていますか?

募集要領は[ココ](#)をクリック(事務所HPへ)



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp

昭和40年(1965)災害／『奥越豪雨』⑤

【揖斐川筋】

徳山村では小学校倒壊、教師一人犠牲に

徳山村《現揖斐川町》は集中豪雨の最も激しかったところである。9月14日10時から18時まで100mm近い雨量を記録、20時頃より80～90mm/時の雨が3～4時間続いた。

14日の雨量は700mmを越え、雨は15日夕方近くまで降り続き、13日～15日の雨量は952mmを記録した。

当時徳山村に住んでいた長屋昭二さんは、「夕立は馬の背を分けるというが、川一本を隔てて雨の粒の大きさが違って」と証言している。揖斐川を挟んで左岸の方の降り方が激しかったのである。門入では14日の18時に107mmを記録しているが、その後の雨量は徳山に比較してはるかに少ない。

円谷、荒谷が荒れ、「谷がガラガラと音がした」（長屋氏）という。

揖斐川にかかる池田橋は冠水、ふだんはわずかな水量の谷がにわかにあふれ、押し出された土砂によって小学校が全壊、教員一人が土砂に埋まり犠牲となった。



徳山小学校崩壊

村への道路は寸断され、まったく孤立した。しかもこの豪雨により白谷がヌケる。たまたま白谷上流に入っていた山仕事の人がこれを発見、漆谷沿いにころげるように降りてきて居合わせた村人に事情を告げるが、孤立した状態では、すぐにこのことを役場などのしかるべきところに伝えることはできなかったのである。滑落した土砂は、土塊となって白谷に堆積して流れを塞ぎ止め、天然ダムを形成した、このダムの崩壊が予想され、新たな災害の危険性が生まれた。

藤橋村消防団活動状況

14日早朝より降り始めた雨が、夕刻6時頃より強くなり、役場の宿直者（杉原聞朝）が揖斐電《現イビデン(株)》に雨量を問い合わせたところ、東杉原観測所では1時間に100mmを越すとのことであった。このため、村長、助役、団長に連絡した。山崩れ、崖崩れの危険もあるため、第1、第2分団長を招集、水防等警戒体制に入ることを指示した。

一方、杉原地区2分団長にも同様の指示を架電、杉原地区では全団員を非常招集（午後7時）、各地区が水防等警戒体制に入った。

午後9時30分頃、東杉原の谷川が氾濫し、土砂の流入が激しくなったため、宮下篤支、川瀬金司、島中精司の3戸に避難命令を区長名で出し、団員5名（竹島勇、大谷幸雄、川瀬金司、小林実、有馬末吉）の誘導により村民を善勝寺裏の高台へと避難させた。

その後、水勢は刻々増し、危険が予想されるので、11時再び避難命令を全戸に指示、12時頃までに全員の避難を終了した。

15日午前1時頃、近鉄バス車掌島岡勇（23才）が不在なのを、親せきの人が発見。直ちに救助に向かったが、水流が強く、近づくこともできず、対岸に逃がれたか、家に取り残されたのかを確認できなかった。

15日午前6時頃、竹島貞司（元副団長）が警鐘塔より島岡勇が家の付近にいるのを発見、団員に連絡した。

連絡を受けた団員は、島中敏郎宅前よりロープづたいに、消防器具庫までの連絡を確保。はしごを順おくりを送って、器具庫より人家の屋根づたいにはしごを伸ばして救助を待つ島岡勇を救出した。

同未明、電話が不通なのを知り、探索の結果、揖斐電散宿所の電話が下の発電所まで通話可能なのを発見。その電話によって、土砂流入と前の谷川氾濫のため、被害甚大である旨と、団員の増員派遣を役場へ伝達依頼。

同明け方、応援団員が到着、被災地の救助活動を開始。

同午前8時頃、団員の決死的渡川によって居住者全員が無事なのを再確認。食料状況も把握。

16日午前5時30分より本格的に被災者の救助活動を開始し、各団員続々、濁流の中を渡り、居住者との連絡、食料等の搬入。「猪子工法」により、川の流れを変える作業を始めた。

同日、台風24号接近に伴い、再び被災地を中心に、山崩れ、崖崩れ等の警戒、水防警戒、居住者全員221名を西杉原の杉原小学校に避難誘導。

17日、台風24号の襲来に備え、引続き各団員が水防と土砂崩れ、崖崩れなどの警戒体制をとる。

同日午前中、食料等の運搬作業に各団員従事。

18日、明け方より再び復旧作業に従事。

<つづく>

出典：越美山系災害史（原文のまま）

《 》はクマタカ通信転載にあたっての補足箇所
発行：越美山系砂防工事事務所 平成10年10月